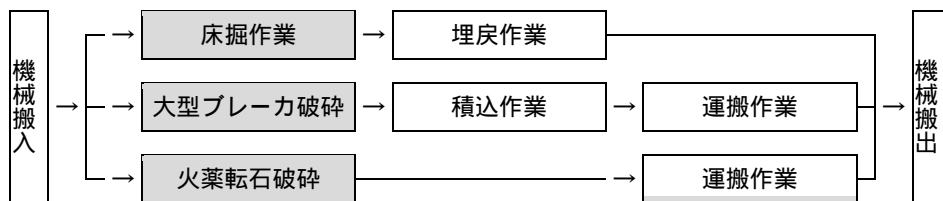


3) 機械土工 (土砂, 岩石)

1. 施工概要及び適用範囲

1-1 施工概要 (施工フロー)



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3)-1 機械土工 (土砂)

1. 掘削法及び機種を選定

1-1 掘削法

(1) オープンカット

バックホウ掘削...バックホウによる掘削 (床掘り) 及び積込作業をいう。

1-2 機種を選定

標準として積算に用いる機械・規格は、次表のとおりとするが、工事量、工期、現場条件を勘案して最も適した機種を選定する。

(1) バックホウの機種選定

表 1.1 掘削積込の機種選定

作業の種類	作業内容	機械名	規格
床掘り (作業土工)	標準	バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
	平均施工幅 1m 以上 2m 未満の場合	バックホウ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
	平均施工幅 1m 未満の場合	「5) 小規模土工」	

(注) 1. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. 施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

ただし、施工土量 (地山土量) をほぐした土量及び締固め後の土量の状態に換算する場合は、次表の土量換算係数 f を乗じて算出する。

表 2.1 土量換算係数 f の値

求める作業量 基準の作業量	地山の土量	ほぐした土量	締固めた土量
地山の土量	1	L	C

(注) L 及び C は「第 11 編第 1 章 1) 土量変化率等」による。

(2) 土質区分

土質は次表のとおり区分する。

表 2.2 土質区分

各土質名	分類土質名
砂	砂
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土
レキ質土, 砂利混じり土, レキ	レキ質土
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土
岩塊・玉石混じり土, 破碎岩	岩塊・玉石

2-1 バックホウの作業能力

(1) 日当り施工量

バックホウによる各作業の日当り施工量は, 次表を標準とする。

表 2.3 日当り施工量 (1日当り)

作業の種類	名称	規格	土質名	単位	数量	
					障害なし	障害あり
床掘り (作業土工)	バックホウ 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	レキ質土, 砂・砂質土, 粘性土	m ³	220	180
			岩塊・玉石	"	160	130
		排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	レキ質土, 砂・砂質土, 粘性土	"	150	100
			岩塊・玉石	"	110	70

(注) 現場条件の内容

1. 床掘り(作業土工)

障害なし: 1) 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合。

2) 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締切工掘削の場合。

障害あり: 1) 床掘り作業において障害物等により施工条件に制限がある場合(例えば作業障害が多い場合)。

2) 土留・仮締切工の中に, 切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物がある場合。

2. 掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業(溝掘り, 基礎掘削, 床掘り)を行う場合は障害ありを適用する。

2-2 クラムシェルの作業能力

2-2-1 適用範囲

(1) 本資料の適用範囲

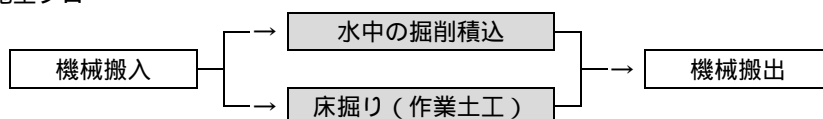
本資料は, 土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが 5m を超える場合, 又は掘削深さが 5m 以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用出来ない場合で床掘り(作業土工)及び水中の掘削積込作業に適用する。

ただし, 水中掘削積込については, 陸上作業を対象とし, 海上・水上作業は除く。

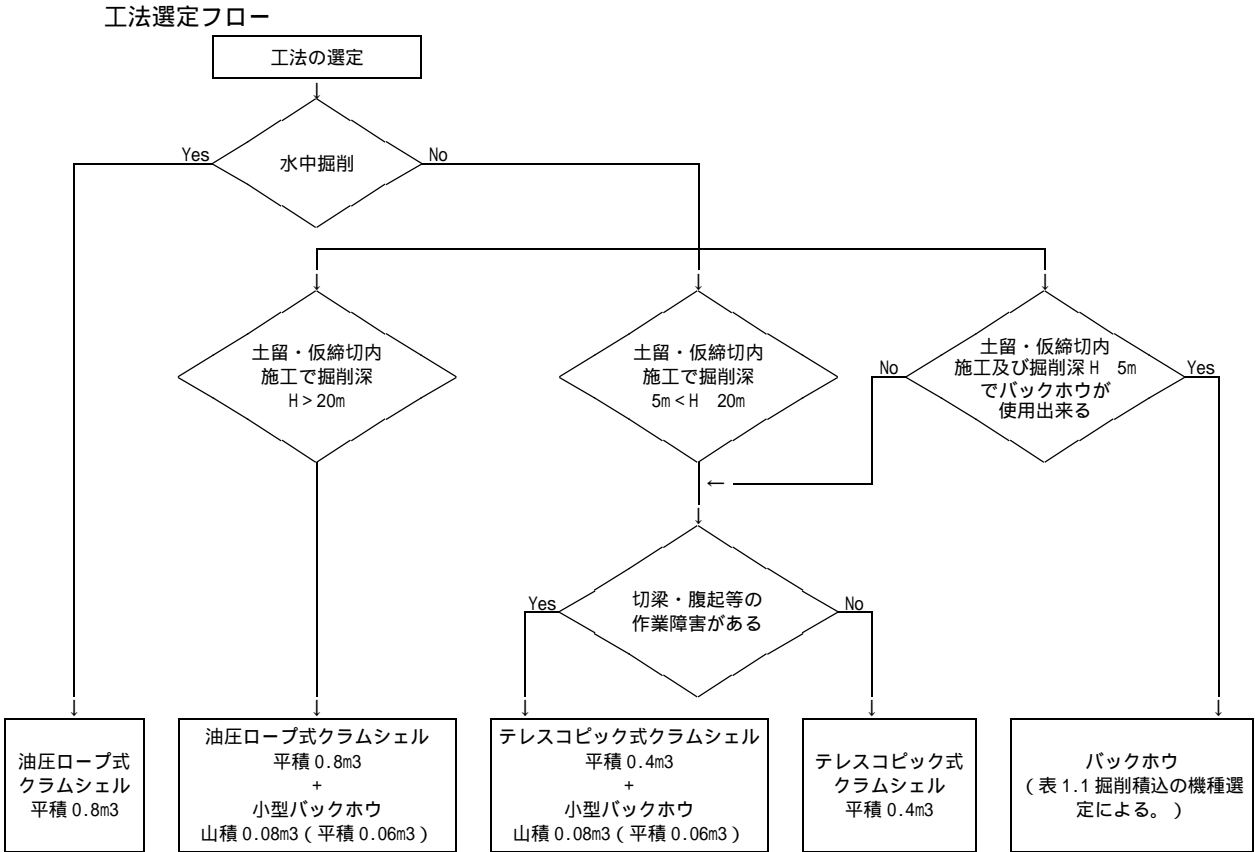
なお, 別途歩掛が存在する深礎工, 鋼管矢板基礎工, 共同溝工, 地すべり防止工は除く。

(2) 施工概要

施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは, 着色部分のみである。



2-2-2 施工歩掛

(1) 使用機種

表 2.4 使用機種

機種	作業種別	台数	水中の掘削・ 積込み	床掘り (作業土工)		摘要
				掘削深		
				5m < H < 20m	H > 20m	
油圧ロープ式クラムシェル クローラ型平積 0.8m3		1				掘削・積込み
油圧クラムシェルテレスコピック式 クローラ型平積 0.4m3		1				掘削・積込み
小型バックホウ排出ガス対策型 (第 1 次基準値)・クローラ型 山積 0.08m3 (平積 0.06m3)		1		(注)		掘削・集土

(注) 油圧式クラムシェルテレスコピック式クローラ型の作業において、土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の作業障害がある場合は、小型バックホウを計上する。

(2) 日当り施工量

各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 2.5 日当り施工量 (1 日当り)

作業の種類	機種	土質名	単位	数量	
				障害なし	障害あり
水中の掘削積込	油圧ロープ式クラムシェル クローラ型平積 0.8m ³	レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土	m ³	260	-
		岩塊・玉石混り土	"	180	-
床掘り (作業土工)	油圧クラムシェルテレスコピック式 クローラ型平積 0.4m ³	レキ質土・砂・砂質土 粘性土	"	200	130
		岩塊・玉石混り土	"	140	90
	油圧ロープ式クラムシェル クローラ型平積 0.8m ³ + 小型バックホウ排出ガス対策型 (第 1 次基準値)クローラ型 山積 0.08m ³ (平積 0.06m ³)	レキ質土・砂 砂質土・粘性土	"	-	120
		岩塊・玉石混り土	"	-	90

(注) 1. 床掘りの現場条件の内容

障害なし：土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物がない場合。

障害あり：土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物がある場合。

2. 油圧式クラムシェルテレスコピック式クローラ型の作業において、土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物がある場合は、小型バックホウ(山積 0.08m³)を計上する。
3. 小型バックホウの坑内搬入搬出については、表 3.7 より計上する。
4. 坑内でバックホウを使用する場合、及び基面整正、床掘補助作業に防護施設、送風機等が必要な場合は別途計上する。

(3) 小型バックホウの搬入搬出作業

掘削深 H > 20m、及び現場条件により小型バックホウ山積 0.08m³ (平積 0.06m³)を計上する場合、坑内への搬入搬出作業は次表のとおりとする。

表 2.6 小型バックホウの搬入搬出作業 (1 回当り)

名称	規格	単位	数量
特殊作業員		人	1.2
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	日	0.3

(注) トラッククレーンは、賃料とする。

2-3 床掘 (作業土工) 補助労務

(1) 土留方式による床掘 (作業土工) の補助労務

土留・仮締切方式により床掘作業を行う場合、土留材等に付着する土(土べら)落とし、腹起し・切梁・火打梁等により機械掘削できない箇所の人力掘削及び小規模な湧水処理等の作業のため、床掘補助として次表の普通作業員を計上する。

表 2.7 床掘補助労務 (100m³ 当り)

作業の種類	土留方式	名称	単位	数量
床掘り (作業土工)	自立式	普通作業員	人	0.3
	切梁腹起し方式	普通作業員	"	0.9
	グランドアンカ方式	普通作業員	"	0.7

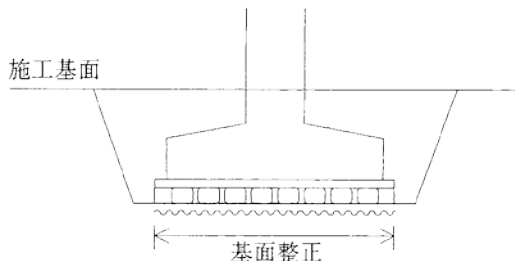
(2) 基面整正

基面整正 (床付面の整正作業) が必要な場合は, 次表を標準とする。

表 2.8 基面整正労務 (100m² 当り)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	2.0	

図 3-1 基面整正の計上部分



3. 単価表

(1) バックホウ床掘 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日	100/D	表 2.4
普通作業員		人		必要により計上する。表 2.7
諸雑費		式	1	
計【SJ1010001】				

(注) D: 日当り施工量

(2) クラムシェル (油圧ロープ式・クローラ型) 水中掘削積込 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
クラムシェル運転	油圧ロープ式・クローラ型平積 0.8m ³	日	100/D	表 2.6
諸雑費		式	1	
計【S0043】				

(注) D: 日当り施工量

(3) クラムシェル (テレスコピック式・クローラ型) 床掘 (掘削深 5m < H 20m) 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
クラムシェル運転	テレスコピック式 クローラ型平積 0.4m ³	日	100/D	表 2.6
小型バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.08m ³ (平積 0.06m ³)	"	100/D	表 2.6 必要に応じ計上
普通作業員		人		表 2.8
諸雑費		式	1	
計【S0042】				

(注) D: 日当り施工量

(4) クラムシェル (油圧ロープ式・クローラ型) 床掘 (掘削深 H>20m) 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
クラムシェル運転	油圧ロープ式・クローラ型平積 0.8m ³	日	100/D	表 2.6
小型バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.08m ³ (平積 0.06m ³)	"	100/D	表 2.6
普通作業員		人		表 2.8
諸雑費		式	1	
計【S0042】				

(注) D: 日当り施工量

(5) 小型バックホウ搬入搬出作業 1 回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	1.2	表 2.6
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	日	0.3	表 2.6
諸雑費		式	1	
計【S0044】				

(6) 基面整正 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	2	表 2.8
諸雑費		式	1	
計【S0012】				

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (床掘り)	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	機-18	運転労務数量 1.00 燃料消費量 57 機械損料数量 1.38
バックホウ (床掘り)	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	機-18	運転労務数量 1.00 燃料消費量 110 機械損料数量 1.48
クラムシェル	油圧ロープ式クローラ型平積 0.8m ³	機-18	運転労務数量 1.00 燃料消費量 141 機械損料数量 1.58
クラムシェル	テレスコピック式クローラ型平積 0.4m ³	機-18	運転労務数量 1.00 燃料消費量 135 機械損料数量 1.58
小型バックホウ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.08m ³ (平積 0.06m ³)	機-23	運転労務数量 1.00 燃料消費量 24 機械損料数量 1.73

3)-2 機械土工 (岩石)

1. 適用範囲

本資料は、道路、河川工事等の岩掘削に伴う大型ブレーカ掘削及び転石破碎に適用する。

2. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 2.1 機種を選定

掘削法	機械名	規格	単位	数量	摘要
大型ブレーカ掘削	大型ブレーカ	油圧式 1,300kg 級	台	1	
大型ブレーカ転石破碎	大型ブレーカ	油圧式 1,300kg 級	台	1	

(注) 大型ブレーカのベースマシンは、バックホウ (排出ガス対策型 (第 2 次基準値)・クローラ型山積 0.8m³ (平積 0.6m³)) とする。

3. 施工歩掛

(1) 大型ブレーカ掘削

大型ブレーカ掘削は、床掘作業で掘削箇所大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合に適用する。

岩分類別の掘削歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 大型ブレーカ掘削 (II) 日当り施工量 (1 日当り)

岩分類	単位	施工量
軟岩	m ³	32
硬岩	"	21

日当り掘削歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 大型ブレーカ掘削歩掛 (1 日当り)

名称	規格	単位	数量	
			軟岩	硬岩
大型ブレーカ運転	油圧式 1,300kg 級	日	1.0	1.0
諸雑費率		%	4	14

(注) 1. 上表は、転石の小割には適用しない。
 2. 上表には、破砕片除去、法面整形は含まない。
 3. 諸雑費は、大型ブレーカ用チゼル損耗費であり、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 上表により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 大型ブレーカ転石破碎

大型ブレーカ転石破碎の歩掛は、次表を標準とする。
 なお、本歩掛には転石の掘出し、破砕石の除去は含まない。

1) 大型ブレーカ転石破碎

表 3.3 大型ブレーカ転石破碎歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
大型ブレーカ運転	油圧式 1,300kg 級	h	2.0
チゼル損耗費	1,300kg 級用	本	0.02

(注) 1. 大型ブレーカ転石破碎は、転石粒径 0.5m 以上を対象とする。
 2. 作業範囲は、施工幅 4.0m 以上の箇所で、機械走行面より上下に 5m 以内を標準とする。
 3. 機械損料の補正係数は +0.25 とする。

2) 火薬転石破碎歩掛

火薬転石破碎歩掛は、次表を標準とする。

なお、火薬転石破碎は、大型ブレイカ転石破碎の作業範囲以外の領域に適用する。

表 3.4 火薬転石破碎歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.3
削岩工		〃	1.3
特殊作業員		〃	0.6
普通作業員		〃	0.3
諸雑費率		%	30

(注) 1. 火薬転石破碎は、転石粒径 1.0m 以上を対象とする。

2. 諸雑費は、火薬・雷管の費用、さく岩機損料及びさく岩機用空気圧縮機の運転経費、さく岩機のロッド・ビットの損耗費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 諸雑費における火薬の標準的な使用量は、10m³ 当り含水爆薬 1.6kg とする。

4. 転石破碎の 1 日当り標準作業量は 33m³ とする。

4. 単価表

(1) 大型ブレイカ掘削 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
大型ブレイカ運転	油圧式 1,300kg 級	日	M × 10/D	表 3.2
諸雑費		式	1	〃
計【SJ1010003】				

(注) D: 日当り施工量, M: 日当り掘削歩掛

(2) 大型ブレイカ転石破碎 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
大型ブレイカ運転	油圧式 1,300kg 級	h	2	表 3.3
チゼル損耗費	1,300kg 級用	本	0.02	〃
諸雑費		式	1	
計【S0072】				

(3) 火薬転石破碎 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.3	表 3.4
削岩工		〃	1.3	〃
特殊作業員		〃	0.6	〃
普通作業員		〃	0.3	〃
諸雑費		式	1	〃
計【S0072】				

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大型ブレーカ (バックホウ装着)	油圧式 1,300kg 級	機 - 20	[大型ブレーカ掘削] 運転労務数量 1.00 燃料消費量 135 機械損料数量 1 1.33 (バックホウ排出ガス対策型(第 2 次基準 値)・クローラ型山積 0.8m3(平積 0.6m3)) 機械損料数量 2 1.33 (大型ブレーカ油圧式 1,300kg 級)
大型ブレーカ (転石破碎) (バックホウ装着)	油圧式 1,300kg 級	機 - 3	機械損料 1 バックホウ排出ガス対策型 (第 2 次基準値)・クローラ型 山積 0.8m3(平積 0.6m3)
			機械損料 2 大型ブレーカ油圧式 1,300kg 級 単位 日 数量 1/T T: バックホウ運転日当り運転時間

4) 機械土工 (埋戻工)

1. 適用範囲

本資料は、機械による埋戻 (敷均し含む) 及び締固めの一連作業に適用する。

なお、「第 編第 1 章土工 5) 小規模土工」の適用範囲に合致する工事は、適用しない。

2. 施工計画

2-1 埋戻し

埋戻機械は、バックホウ山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 又は山積 0.45m³ (平積 0.35m³) を標準とする。

なお、埋戻機械の稼働時間には、敷均しを含む。

2-2 敷均し補助

埋戻機械により、埋戻材料のはねつけ、敷均しを行うが、構造物周辺の敷均し補助として普通作業員を計上する。

2-3 締固め

締固め機械は、次表を標準とする。

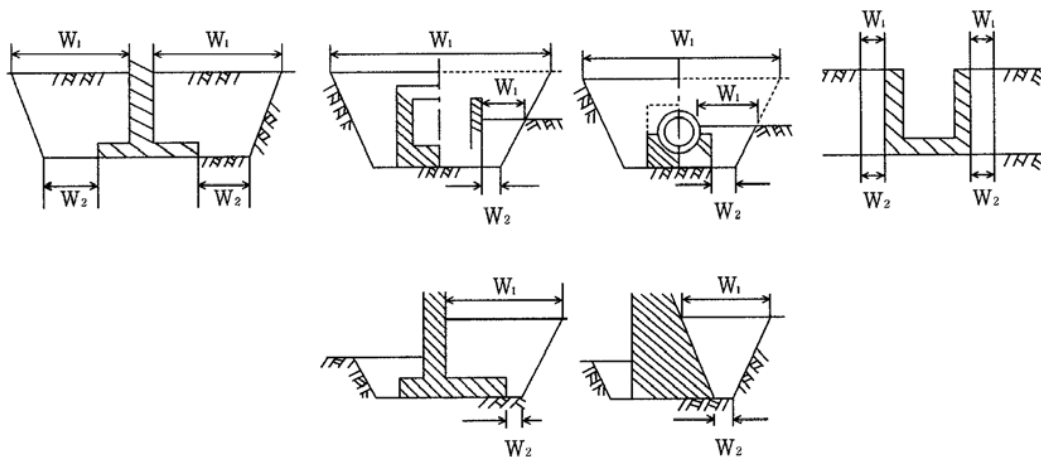
表 2.1 締固め機械の機種選定

埋戻種別	埋戻幅 (W)	締固め機械	規格	台数	備考
A	W2 4m	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 普通 15t 級	1	
B	W1 4m	振動ローラ タンパ	ハンドガイド式 0.8~1.1t 60~80kg	1 1	
C	1m W1 < 4m	振動ローラ タンパ	ハンドガイド式 0.8~1.1t 60~80kg	1 1	
D	W1 < 1m	タンパ	60~80kg	1	

(注) 1. 埋戻幅 W1 とは最大埋戻幅、埋戻幅 W2 とは最小埋戻幅を表し、下図のとおりとする。なお、擁壁等で前背面の最大埋戻幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一歩掛を適用するものとする。

2. 埋戻幅 W2 が 4m 以上の場合は、埋戻種別 A を適用するものとする。

3. 締固め機械等の搬入が困難な場合、又は締固めを伴わない作業等で、上表によることが著しく不適当と判断される場合は、別途考慮する。



3. 施工歩掛

3-1 埋戻工A

埋戻工 A 歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 埋戻工 A 歩掛 (100m³ 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	2.0	
ブルドーザ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 普通 15t 級	〃	2.0	

(注) 上表歩掛には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。

3-2 埋戻工B

埋戻工 B 歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 埋戻工 B 歩掛 (100m³ 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	1.6	敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	2.8	
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8～1.1t	日	0.92	
タンバ締固め	60～80kg	m ³	4	

(注) 1. 上表歩掛には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。
2. タンバ締固めは、3-5 タンバ締固めによる。
3. 振動ローラ、タンバは、賃料とする。

3-3 埋戻工C

埋戻工 C 歩掛は、次表を標準とする。

表 3.3 埋戻工 C 歩掛 (100m³ 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4.0	敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	4.0	
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8～1.1t	日	1.35	
タンバ締固め	60～80kg	m ³	10	

(注) 1. 上表歩掛には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。
2. タンバ締固めは、3-5 タンバ締固めによる。
3. 振動ローラ、タンバは、賃料とする。

3-4 埋戻工D

埋戻工 D 歩掛は、次表を標準とする。

表 3.4 埋戻工 D 歩掛 (100m³ 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4.0	敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	h	6.0	
タンバ締固め	60～80kg	m ³	100	

(注) 1. 上表歩掛には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。
2. タンバ締固めは、3-5 タンバ締固めによる。
3. はねつけ機械の搬入が困難な場合は、「人力盛土+タンバ締固め」とする。
4. タンバは、賃料とする。

3-5 タンパ締固め

タンパによる締固め施工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.5 タンパ締固め施工歩掛

(100m³ 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	3.0	補助労務
タンパ運転	60～80kg	日	3.0	

4. 単価表

(1) 埋戻工 A 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h		表 3.1
ブルドーザ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 普通 15t 級	〃		〃
諸雑費		式	1	
計【S0048】				

(2) 埋戻工 B 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.2 敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h		〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8～1.1t	日		〃
タンパ締固め	60～80kg	m ³		〃 補助労務含む
諸雑費		式	1	
計【S0048】				

(3) 埋戻工 C 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.3 敷均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h		〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8～1.1t	日		〃
タンパ締固め	60～80kg	m ³		〃 補助労務含む
諸雑費		式	1	
計【S0048】				

(4) 埋戻工 D 100m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.4 数均し補助
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	h		"
タンバ締固め	60 ~ 80kg	m3		" 補助労務含む
諸雑費		式	1	
計【S0048】				

(5) タンバ締固め 100m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.5
タンバ運転	60 ~ 80kg	日		"
諸雑費		式	1	
計【S0052】				

(6) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	機 - 1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	機 - 1	
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 普通 15t 級	機 - 1	
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8 ~ 1.1t	機 - 31	運転労務数量 1.0 燃料消費量 5.2 機械賃料数量 1.44
タンバ	60 ~ 80kg	機 - 31	運転労務数量 1.0 燃料消費量 4.5 機械賃料数量 1.38 主燃料 ガソリン 運転時間 5h/日

5) 小規模土工

1. 適用範囲及び施工概要

1-1 適用範囲

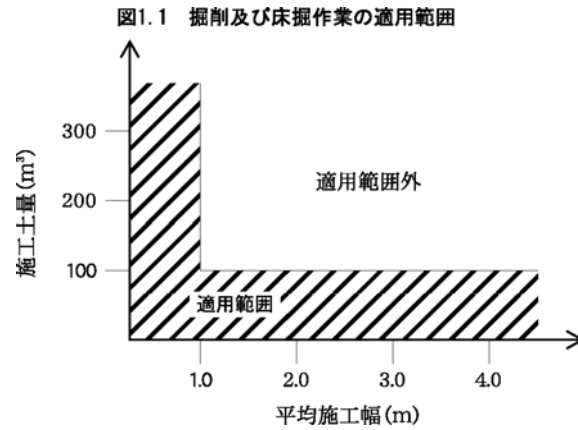
本資料は、バックホウを用いて行う下記のいずれかに該当する小規模な土工に適用する。

ただし、共同溝工、電線共同溝工、情報ボックス工（ダンプトラック運搬を除く）及び光ケーブル配管工（ダンプトラック運搬を除く）には適用しない。

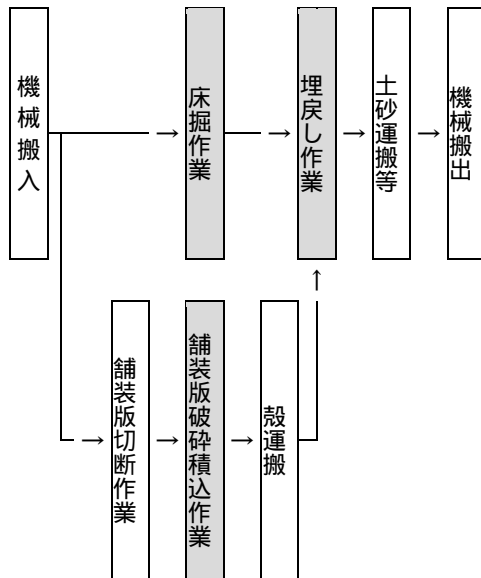
- ・ 1 箇所当りの施工土量が 100m³ 程度まで、又は平均施工幅 1m 未満の床掘り及びそれに伴う埋戻し、舗装版破碎積込（舗装厚 5cm 以内）、運搬作業

また、適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）とする。

なお、「1 箇所当り」とは目的物（構造物・掘削等）1 箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を 1 箇所とする。



1-2 施工概要（施工フロー）



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2. 土砂等運搬は「第 II 編 第 1 章 2) 土工」による。

3. 殻運搬は「第 II 編 第 2 章 25) 殻運搬」による。

2. 機種の選定

各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 2.1 機種の選定

作業の種類	作業の内容	機械名	規格	摘要
舗装版破碎積込	-	小型バックホウ	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型 山積 0.13m ³ （平積 0.1m ³ ）	
床掘り	-	バックホウ	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	
埋戻し	-	”	” 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	はねつけ
		タンバ	60～80kg	締固め

(注) 1. 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び 1 箇所当りの施工土量が 50m³ 以下の箇所とする。
2. タンバは賃料とする。

3. 舗装版破碎積込作業

3-1 日当り施工量

舗装版破碎積込作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.1 日当り施工量 (1 日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型山積 0.13m ³ （平積 0.1m ³ ）	m ²	26

4. 床掘作業

4-1 日当り施工量

バックホウによる床掘作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り施工量 (1 日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	m ³	35

4-2 補助労務

床掘作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 4.2 床掘補助労務 (10m³ 当り)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.3	基面整正及び浮き石除去含む

5. 埋戻作業

5-1 適用範囲

機械による埋戻し（敷均し含む）及び締固めの一連作業に適用する。

5-2 日当り施工量

バックホウによる埋戻作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 5.1 日当り施工量

(1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	m ³	41
タンバ運転	60～80kg	〃	37

（注）上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。

5-3 補助労務

埋戻作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

5.2 埋戻作業補助労務

(10m³ 当り)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.7	敷均し及びタンバ締固め補助

（注）上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれている。

6. 単価表

(1) バックホウ舗装版破碎積込 10m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.13m ³ （平積 0.1m ³ ）	日	10/D	表 3.1
諸雑費		式	1	
計				

（注）D：日当り施工量

(2) バックホウ床掘 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 4.2
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型後方超小旋回型山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	日	10/D	表 4.1
諸雑費		式	1	
計【SJ1010005】				

（注）D：日当り施工量

(3) 埋戻し 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 5.2
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型後方超小旋回型山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	日	10/D	表 5.1
タンバ運転	60～80kg	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	
計【SJ1010005】				

（注）D：日当り施工量

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項	
バックホウ	排出ガス対策型（第 1 次基準値） ・クローラ型 山積 0.13m ³ （平積 0.1m ³ ）	機 - 18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 22 1.39
〃	排出ガス対策型（第 1 次基準値） ・クローラ型後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	機 - 18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 38 1.52
タンバ	60～80kg	機 - 31	運転労務数量 燃料消費量 賃料数量 主燃料	1.00 5 1.61 ガソリン

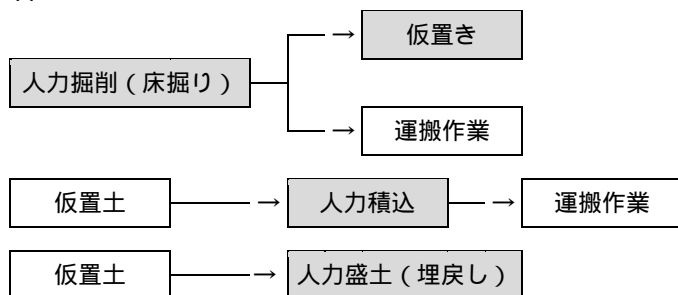
6) 人力土工 (土砂, 岩石)

6)-1 人力土工 (土砂)

1. 適用範囲

本資料は、機械施工が出来ない箇所の人力土工に適用する。

施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2. 適用作業

本資料を適用する作業は、次のとおりとする。

2-1 人力掘削 (床掘り)

人力により掘り起した土砂を距離 3m 程度までの範囲で投棄し、仮置き又は積込みを含む一連作業をいう。

2-2 人力積込

仮置きされた土砂を人力により直接積込むまでの作業をいう。

2-3 人力盛土 (埋戻し)

仮置きされた土砂を人力により 3m 程度までの範囲で投棄し、さらに敷均しするまでの一連の作業をいう。

3. 施工歩掛

3-1 土量の表示

a. 人力掘削 (床掘り) ・積込歩掛の対象土量は、地山土量で表示する。

b. 人力盛土 (埋戻し) 歩掛の対象土量は、締固め土量で表示する。

3-2 人力掘削 (床掘り)

人力掘削 (床掘り) 歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 人力掘削 (床掘り) 歩掛 (10m³ 当り)

名称	単位	土質区分	
		粘性土・砂・砂質土・レキ質土	岩塊・玉石混り土
普通作業員	人	3.9	6.0

(注) 1. 基面整正を含み、掘削した土砂を斜路等により運搬するか、段ばねする場合は、別途計上する。

2. 水替が必要な場合は、別途計上する。

3-3 人力積込

人力積込歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 人力積込歩掛 (10m³ 当り)

名称	単位	土質区分	
		粘性土・砂・砂質土・レキ質土	岩塊・玉石混り土
普通作業員	人	1.3	1.9

3-4 人力盛土 (埋戻し)

人力盛土 (埋戻し) 歩掛は, 次表を標準とする。

表 3.3 人力盛土 (埋戻し) 歩掛 (10m3 当り)

名称	単位	土質区分	
		粘性土・砂・砂質土・レキ質土	岩塊・玉石混り土
普通作業員	人	2.3	2.6

- (注) 1. 小運搬が必要な場合は, 別途計上する。
 2. 締固めを必要とする場合で, 盛土の場合は「第 編第 1 章土工 2) 土工 (施工パッケージ)」により路体 (築堤) 盛土又は路床盛土, 埋戻しの場合は「第 編第 1 章土工 4) 機械土工 (埋戻工)」によりタンパ締固め歩掛を別途計上する。
 3. 盛土法面整形が必要な場合は, 別途計上する。

4. 単価表

(1) 人力掘削 (床掘り) 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
諸雑費		式	1	
計【S0002】				

(2) 人力積込 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.2
諸雑費		式	1	
計【S0008】				

(3) 人力盛土 (埋戻し) 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.3
諸雑費		式	1	
計【SJ1010009】				

(4) 人力埋戻し + タンパ締固め 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
人力埋戻し		m3	10	(4) 単価表
タンパ締固め	60 ~ 80kg	"	10	「4) 機械土工 (埋戻工)」による
諸雑費		式	1	
計【SJ1010011】				

6)-2 人力土工 (岩石工)

1. 適用範囲

本資料は、機械施工が出来ない箇所の人力による岩の積込みに適用する。

2. 適用作業

本資料を適用する作業は、次のとおりとする。

2-1 人力積込

仮置きされた岩を人力により直接積込むまでの作業をいう。

3. 施工歩掛

3-1 土量の表示

人力積込歩掛の対象土量は地山土量で表示する。

3-2 人力積込

人力による岩積込に適用する。なお、岩分類別の積込歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 人力岩積込歩掛 (10m³ 当り)

土質	職種	単位	普通作業員
			ダンプトラック等
軟岩 (,)		人	1.8
中硬岩		"	2.0
硬岩 ()		"	2.2
アスファルト塊		"	1.8
コンクリート塊		"	2.0

(注) 1. 積込みとは、仮置きされた岩を直接積込むまでの作業をいう。
2. 対象土量は、地山土量とする。

3-3 運搬作業

運搬作業は、「第 II 編第 1 章 2) 土工 (施工パッケージ)」による。

4. 単価表

(1) 人力積込 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
諸雑費		式	1	
計【S0008】				

6)-3 人力運搬工

1. 適用範囲

本資料は、機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬に適用する。

2. 適用作業

本資料を適用する作業は、次のとおりとする。

2-1 人肩運搬

道路幅員が 0.5m 程度未満で、人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業をいう。

2-2 小車運搬

道路幅員が 0.5m 程度以上で、人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業をいう。

3. 施工歩掛

3-1 人肩運搬

人肩運搬は表 3.1 及び表 3.2 を適用する。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離の歩掛を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L：換算距離 (m)

H：水平距離 (m)

h：高低差 (m)

(1) 仮置きされた土砂及び諸材料の積込み～人肩運搬～人力取卸しの一連の歩掛は次表を標準とする。

表 3.1 人肩運搬 (積込み～運搬～取卸し)

単位：普通作業員

種別 換算距離	粘性土 砂 砂質土 レキ質土	岩塊 玉石混り土	栗石 クラッシャーラン	セメント 鋼材 木材 二次製品等	積ブロック類 (控 35cm)
0～20m 以下	(人/m ³) 0.21	(人/m ³) 0.31	(人/m ³) 0.26	(人/t) 0.11	(人/m ²) 0.07
20～40	0.26	0.38	0.33	0.14	0.09
40～60	0.32	0.44	0.38	0.17	0.11
60～80	0.37	0.52	0.45	0.21	0.13
80～100	0.43	0.59	0.50	0.24	0.15
100～120	0.49	0.66	0.57	0.27	0.18
120～140	0.54	0.72	0.63	0.31	0.19
140～160	0.60	0.80	0.69	0.34	0.21
160～180	0.65	0.87	0.75	0.37	0.23
180～200	0.71	0.93	0.81	0.41	0.25

(注) 1. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

2. 人肩運搬歩掛には、人肩用のモッコ代を含む。

(2) 人力掘削 (床掘り) から人肩運搬～人力取卸しを一連の作業として行う場合は、次表の人肩運搬～人力取卸し歩掛に別途、「第 11 編 第 1 章 6)-1 人力土工 (土砂) 3-2 人力掘削 (床掘り)」歩掛を加算する。

表 3.2 人肩運搬歩掛 (運搬～取卸し)

単位：普通作業員 (人/m3)

種別 換算距離	粘性土 砂 砂質土 レキ質土	岩塊 玉石混り土
0～20m 以下	0.08	0.12
20～40	0.13	0.19
40～60	0.19	0.25
60～80	0.24	0.33
80～100	0.30	0.40
100～120	0.36	0.47
120～140	0.41	0.53
140～160	0.47	0.61
160～180	0.52	0.68
180～200	0.58	0.74

(注) 1. 運搬距離は、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

2. 人肩運搬歩掛には、人肩用のモッコ代を含む。

3-2 小車運搬

小車運搬は表 3.3 及び表 3.4 を適用する。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離の歩掛を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L：換算距離 (m)

H：水平距離 (m)

h：高低差 (m)

(1) 仮置きされた土砂及び諸材料の積込み～小車運搬～人力取卸しの一連の歩掛は次表を標準とする。

表 3.3 小車運搬 (積込み～運搬～取卸し)

単位：普通作業員

種別 換算距離	粘性土 砂 砂質土 レキ質土	岩塊 玉石混り土	栗石 クラッシャーラン	セメント 鋼材 木材 二次製品等	積ブロック類 (控 35cm)
0～20m 以下	(人/m3) 0.14	(人/m3) 0.22	(人/m3) 0.19	(人/t) 0.09	(人/m2) 0.05
20～40	0.16	0.25	0.21	0.10	0.05
40～60	0.20	0.31	0.25	0.12	0.07
60～80	0.25	0.36	0.31	0.15	0.09
80～100	0.30	0.42	0.36	0.18	0.10
100～120	0.35	0.49	0.43	0.21	0.13
120～140	0.41	0.56	0.48	0.24	0.15
140～160	0.46	0.63	0.54	0.26	0.16
160～180	0.52	0.70	0.61	0.30	0.18
180～200	0.58	0.78	0.67	0.33	0.19

(注) 1. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

2. 小車運搬歩掛には、小車の損料を含む。

(2) 人力掘削 (床掘り) から小車運搬～人力取卸しを一連の作業として行う場合は、下表の小車運搬～人力取卸し歩掛に別途、「第 編第 1 章 6)-1 人力土工 (土砂) 3-2 人力掘削 (床掘り)」歩掛を加算する。

表 3.4 小車運搬歩掛 (運搬～取卸し)

単位：普通作業員 (人/m³)

種別 換算距離	粘性土 砂 砂質土 レキ質土	岩塊 玉石混り土
0～20m 以下	0.01	0.03
20～40	0.03	0.06
40～60	0.07	0.12
60～80	0.12	0.17
80～100	0.17	0.23
100～120	0.22	0.30
120～140	0.28	0.37
140～160	0.33	0.44
160～180	0.39	0.51
180～200	0.45	0.59

(注) 1. 運搬距離は、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

2. 小車運搬歩掛には、小車の損料を含む。

4. 単価表

(1) 人肩運搬 (積込み～人肩運搬～取卸し) 1m³, (1t), (1m²) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
諸雑費		式	1	
計【S0102】				

(2) 人肩運搬 (運搬～取卸し) 1m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.2
諸雑費		式	1	
計				

(注) 掘削 (床掘り) が必要な場合は別途、「第 編第 1 章 6)-1 人力土工 (土砂) 3-2 人力掘削 (床掘り)」歩掛を上表の普通作業員に加算する。

(3) 小車運搬 (積込み～運搬～取卸し) 1m³, (1t), (1m²) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.3
諸雑費		式	1	
計【S0102】				

(4) 小車運搬 (運搬～取卸し) 1m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.4
諸雑費		式	1	
計				

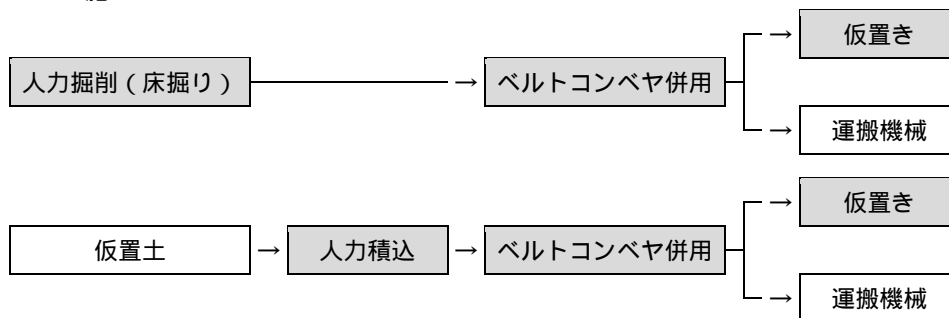
(注) 掘削 (床掘り) が必要な場合は別途、「第 編第 1 章 6)-1 人力土工 (土砂) 3-2 人力掘削 (床掘り)」歩掛を上表の普通作業員に加算する。

6)-4 人力土工 (ベルトコンベア併用)

1. 適用範囲

本資料は、人力による掘削(床掘り)箇所の土砂搬出が直接仮置き又はダンプトラック等に積み込めない場合に、ベルトコンベアを併用して土砂を搬出する掘削作業に適用する。

施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2. 機種及び日当り編成人員

ベルトコンベア併用による人力掘削作業の日当り編成人員及び機種は、次表を標準とする。

表 2.1 日当り編成人員

(1 日当り)

ベルコン据付形態	名称	単位	数量	機種
掘削部にベルコンをほぼ水平に据付ける場合	普通作業員	人	5	ベルトコンベア ポータブルエンジン駆動 L=7m, W=350mm
掘削部にベルコンを傾斜して据付ける場合	普通作業員	人	3	

(注) 1. ベルトコンベアの据付形態及び台数は、掘削作業箇所の高低差及び搬出距離等を勘案のうえ決定する。

2. 編成人員は、仮置き地等と施工基面の高低差の有無により判断するものとし、ベルトコンベアを連続して 2 台以上配置する場合は、掘削部 1 台目のベルトコンベアの据付形態が、ほぼ水平状態か、斜め状態かにより上表の編成人員を判断する。

図 2.1 水平据付

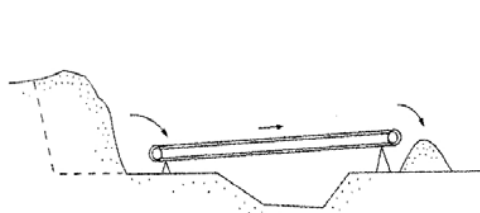
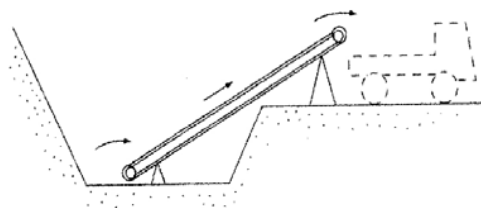


図 2.2 傾斜据付



3. 施工歩掛

ベルトコンベアを使用し人力で掘削，積込み又は床掘りを行う場合は，「第 1 章土工 6) 人力土工」の歩掛にベルトコンベア運転を加算する。

(1) 掘削 (床掘り)

掘削 (床掘り及び積込みを含む) を行う場合の歩掛は，「第 1 章土工 6) 人力土工，人力掘削 (床掘り)」歩掛を適用する。

(2) 積込み

仮置きした土砂をベルトコンベアにより，ダンプトラック等に積込む場合は，「第 1 章土工 6) 人力土工，人力積込」歩掛を適用する。

(3) ベルトコンベア 1 日当りの作業量

ベルトコンベア 1 箇所 (1 箇所連続して 2 台以上運転する場合でも同様) につき，表 2.1 編成人員によりベルトコンベア 1 日当りの作業量を算出するものとし，上記の (1) ~ (2) の歩掛に加算する。

(例) 砂質土及び砂の場合の掘削 (床掘り) 1 日当りベルトコンベア作業量 (水平据付の場合) は，

$$Q = 5 \text{ 人/日} \div (3.9 \text{ 人}/10\text{m}^3) = 12.8\text{m}^3/\text{日}$$

$$\text{運転日数 (10m}^3 \text{ 当り)} = 10 \times 1/Q = 10\text{m}^3 \div 12.8\text{m}^3/\text{日} = 0.8 \text{ 日}$$

表 3.1 ベルトコンベア併用歩掛 (10m³ 当り)

作業	土質区分	名称	単位	ベルコン据付状態		人力土工の適用歩掛
				水平据付	傾斜据付	
ベルコン併用人力掘削 (床掘り)	粘性土・砂・砂質土・レキ質土	普通作業員	人	3.9	3.9	人力掘削 (床掘り)
		ベルトコンベア運転	日	0.8	1.3	
	岩塊・玉石混り土	普通作業員	人	6.0	6.0	
		ベルトコンベア運転	日	1.2	2.0	
ベルコン併用人力積込	粘性土・砂・砂質土・レキ質土	普通作業員	人	1.3	1.3	人力積込
		ベルトコンベア運転	日	0.3	0.4	
	岩塊・玉石混り土	普通作業員	人	1.9	1.9	
		ベルトコンベア運転	日	0.4	0.6	

(注) 1. 上表の普通作業員は，「第 1 章土工 6) 人力土工」の各歩掛を表したものである。

2. ベルトコンベアの運転日数は，10m³ × 1/Q で算出している。

(4) ベルトコンベア付労務

ベルトコンベアの据付，運転，移動に要する労務として特殊作業員を運転日当り 1 人計上する。なお，1 箇所 2 台以上連動して運転する場合でも同様に 1 人とする。

ベルトコンベアの運転日当り運転時間は，6h/日とする。

4. 単価表

(1) ベルトコンベア併用人力掘削 (床掘り) 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
ベルトコンベア運転	ポータブルエンジン駆動 7m	日		表 3.1
諸雑費		式	1	
計【S0010】				

(2) ベルトコンベア併用人力積込 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
ベルトコンベア運転	ポータブルエンジン駆動 7m	日		表 3.1
諸雑費		式	1	
計【S0010】				

(3) ベルトコンベア運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ガソリン		L		1.3L × 6h × 台数
特殊作業員		人	1	
機械損料	ベルトコンベア	日		1 日/台 × 台数
諸雑費		式	1	
計【S9015】				

(注) 1. 特殊作業員はベルトコンベアの据付け, 運転, 移動 1 台 (2 以上連動する場合を含む) 当りの歩掛である。

2. ベルトコンベアの運転日当り運転時間は, 6h/日とする。

7) 安定処理工

7)-1 安定処理工

1. 適用範囲

本資料は、地盤改良工における安定処理に適用する。

(1) スタビライザ混合

現位置での路上混合作業で、混合深さ 1m まで、かつ 1 層までの混合に適用する。

なお、1 層の混合深さが 1m を超える場合や 2 層以上混合する場合は、別途考慮する。

(2) バックハウ混合

現場条件によりスタビライザにより施工できない路床改良工事、及び構造物基礎の地盤改良工事で、1 層の混合厚さが路床 1m 以下・構造物基礎 2m 以下における現位置での混合作業に適用する。

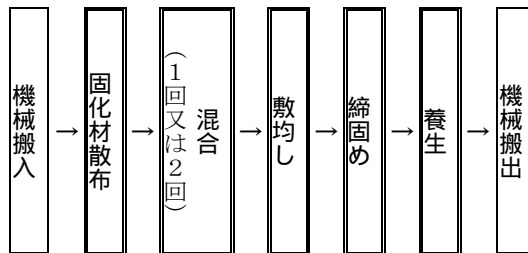
なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。

- 1) 施工現場が狭隘な場合
- 2) 転石がある場合
- 3) 移設出来ない埋設物がある場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

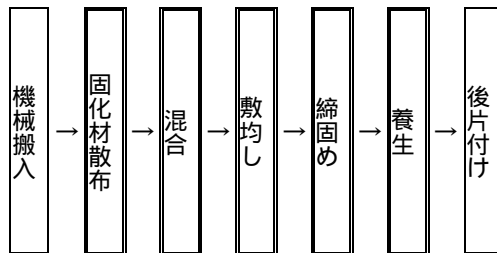
(1) スタビライザ混合



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 養生中の飛散防止等の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。

(2) バックハウ混合



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理【SPK13040010】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 安定処理 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材 100m ² 当り使用量	混合回数
スタビライザ	-	0.6m 以下	(実数入力)	1 回
		0.6m を超え 1m 以下		2 回
バックホウ	路床	1m 以下		1 回
	構造物基礎	1m 以下		2 回
		1m を超え 2m 以下		-
				-

- (注) 1. 上表は、地盤表層部もしくは路床、構造物基礎の改良材散布混合、敷均し・締固め、養生中の飛散防止(シート掛け)、現場内小運搬(スタビライザは 100m 程度の仮置場～現場、バックホウは 50m 程度の現場内小運搬)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. スタビライザ施工の混合回数は、消石灰・セメント系は 1 回、生石灰は 2 回を標準とする。ただし、土質状態により、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 条件区分の「固化材 100m² 当り使用量」は、実数量(材料ロスを含んだ数量)とする。

(2) 代表機劣材規格

下表機劣材は、当該施工パッケージで使用されている機劣材の代表的な規格である。

表 3.2 安定処理 代表機劣材規格一覧

使用機械	施工箇所	項目	代表機劣材規格	備考			
スタビライザ	-	機械	K1	スタビライザ[路床改良用]幅 2.0m 深 0.6m	混合深さ 0.6m 以下の場合		
			K1	スタビライザ[路床改良用]幅 2.0m 深 1.2m	混合深さ 0.6m を越え 1m 以下の場合		
			K2	モータグレーダ[油圧式]ブレード幅 3.1m			
		R1	R2	R3	R4		
							特殊運転手
							普通作業員
							土木一般世話役
		Z1	Z2	Z3	Z4		
							セメント系固化材一般軟弱土用・フレコン・1 トンパック
							軽油 1.2 号パトロール給油
							-
		市場単価	S				
							-
		バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ[クローラ型・クレーン機能付]排出ガス型(第 2 次)山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)2.9t 吊	賃料
K2	タイヤローラ[排出ガス対策型(第 1 次基準値)]質量 8~20t						
K3	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第 2 次)]山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)				賃料		
R1	R2			R3	R4		
							特殊運転手
							普通作業員
							土木一般世話役
Z1	Z2			Z3	Z4		
							セメント系固化材一般軟弱土用・フレコン・1 トンパック
			軽油 1.2 号パトロール給油				
			-				
市場単価	S						
						-	
構造物基礎	機械		K1	バックホウ [クローラ型・クレーン機能付] 排出ガス型(第 2 次)山積 0.8m ³ , 2.9t 吊	賃料		
			K2	振動ローラ[ハンドガイド式]質量 0.8~1.1t	賃料		
			K3	-			
	R1		R2	R3	R4		
							土木一般世話役
		特殊運転手					
		特殊作業員					
	Z1	Z2	Z3	Z4			
						セメント系固化材一般軟弱土用・フレコン・1 トンパック	
軽油 1.2 号パトロール給油							
-							
市場単価	S						
					-		

(注) バックホウ及び振動ローラは賃料とする。